

国語科学習指導案

学 級： 2 年 2 組 2 6 人
場 所： 2 年 2 組 教 室
指導者： 教諭 松元 智宏

1 単元名 小説を熟語で語り合おう ～「走れメロス」を二つの熟語で紹介する～

2 単元について

(1) 教材観

本教材は、「潺々」、「辺りをはばかり」といった漢語や和語を巧みに使った表現が多種多様な小説である。例えば笑うという行動一つとっても「憫笑」、「嘲笑」、「ほくそ笑む」、「せせら笑う」など多彩な表現で登場人物の微妙な心情の違いが表現されている。このことから、事象や行為、心情を表わす語句、抽象的な概念を表わす語句の学習に適した教材だと考えられる。

また、場面ごとの心情の変化は、人間の内面の二面性を端的に表現している。そこには絶対的な英雄としての主人公や、絶対悪として描かれる敵役といったステレオタイプの人物は登場しない。例えば、主人公メロスも挫折や失敗を経験して価値観の正しさに疑問を呈し、迷い、一度は不信に囚われてしまうが、再び立ち上がり、信実という理想を追求しようとする姿が描かれている。このような心情の変化について描写を基に捉えさせ、登場人物の言動の意味などについて考えたことを、自分の知識や経験と照らし合わせて考える授業を構成したい。

(2) 生徒観

4 月に行われた N R T（学力診断テスト）は全国比 50.7 と平均を上回っているが、中領域別集計では「文学的な文章を読むこと」において本校正答率 41.1%（全国正答率 47.7%）と低い結果であった。特に主人公がとった行動の理由を問う問題の正答率が 8% である。どのような問題かという、灰を盗んで家へと向かう主人公が取った行動とその理由を 30 字以内で書く問題である。この結果から、主人公の行動の理由を解釈する力が十分に身に付いていないことが分かる。このことから、登場人物の言動の意味などについて考えさせて、内容を解釈する学習に取り組ませたい。

また、授業においては、全体の前で発表するのを苦手とする生徒が多いが、少人数で話し合ったり教え合ったりする活動では積極的に学習することができる様子が見られる。そこで、対話的な学びを通して課題を解決する学習を通して協働的に学べるよう工夫をしたい。

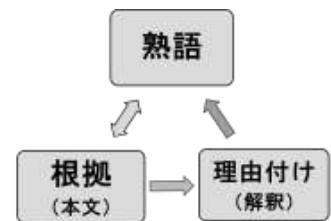
(3) 指導観

以上のことを踏まえ、次のような指導を行う。

まず、「走れメロス」を紹介するのにふさわしい熟語をたくさん選ばせる。熟語は自分が知っている熟語から考えさせるが、どのような熟語がぴったりするのか考える過程で、生徒は自分が知っている熟語だけでは表現しきれないことに気付くであろう。そこで、国語辞典や感情語辞典を使ってぴったりくる言葉を探させ、辞典を効果的に活用する有効性を実感させたい。

次に、他の生徒と考えを共有する対話的な学びの時間を確保する。生徒は自分の考えと他者の考えを比較し、「なぜ?」、「どうして?」、「どこから?」と対話を重ねる中で様々な着眼点や解釈があることに気付くであろう。最後に、熟語を小説の時間軸に並べて、その変化を図式化して捉えさせる。熟語の変化から、メロスやディオニスの内面が、二面性をもっていることに気付くことが期待される。

さらに、熟語を二つに絞り込み、熟語を選んだ理由を三角ロジックで整理させる（資料 1）。理由を考えるためには、根拠として本文に立ち回り、本文をどのように解釈したのかを明確にする必要がある。三角ロジックの「事実」に当たるところに教科書本文を抜き出させ、「理由付け」に本文



資料 1 三角ロジック

をどのように解釈したのかという理由を書かせ、「結論」に当たる部分に選んだ熟語を書かせる。なお、本文を解釈して理由付けを書く学習過程が、生徒観で述べた通り生徒達が苦手としている部分なので、特に支援が必要であり、個別に支援したり、対話を通して解決できる場面を設定したりし、論理的に考える力を育成したい。どんな熟語を選んだのか友だちと考えを共有する活動を通して、生徒は自分の考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

最後に、学習の成果をリフレクションシート「学びの振り返り」に言語化して記述することで、自他の思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる考える。

3 単元の指導目標

- 「走れメロス」を表す二つの熟語を考え、本文を根拠にしてその理由を考えようとする。【関心・意欲・態度】
- 登場人物の言動の意味などについて理解したり考えたりしたことを、知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【読むこと】
- 心情や情景を表わす多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【伝統的な言語文化と国語に関する特質】

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
① 「走れメロス」を表す言葉を考え、本文を根拠にしてその理由を考えようとしている。	① 登場人物の言動の意味について考えて内容を解釈している。 ② 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	① 心情や情景を表わす多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。

(2) 指導と評価の計画

時間	指導内容	評価規準
1	① 学習のねらいをつかみ、学習の見通しをもたせる。 ② 既習教材「少年の日の思い出」を熟語で表現させる。 ③ 文章を通読し、話の展開や内容の大体をつかませる。 ④ 「わたしの学習課題」を立てさせる。	アー① イー② イー① アー①
2 3	① 「走れメロス」を紹介するのにぴったりする熟語をノートに書き出させる。 ② 熟語を物語構成図に配置し、場面と場面の関係も踏まえてぴったりの熟語を考えさせる。	イー①ウー① イー②
4 (本時)	① 熟語を二つに絞り、三角ロジックを使って根拠を書かせる。 ② ペアやグループで「なぜ?」、「どうして?」、「どこから?」と聞き合い、考えを共有させる。 ③ なぜその言葉を選んだのか、根拠を明確にして文章にまとめさせる。	イー① イー② イー②
5	① どんな言葉を選んだのか友だちと聞き合い、感じたことや考えたことを交流させる。 ② リフレクションシートの「学びの振り返り」にどのような思考を経て学んだのかという学習の成果を記述し、今後の読書につなげさせる。	イー② アー①

5 本時の実際（４／５）

(1) 単元名 小説を熟語で語り合おう ～「走れメロス」を二つの熟語で紹介する～

(2) 学習目標

「走れメロス」を語るのにぴったりの熟語を二つ選び、根拠を友だちに説明することができる。

(3) 研究の取組

ア 「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫

(7) リフレクションシートの活用

文章に対する一人一人の疑問を吟味させ、「走れメロス」を熟語で語るために必要な「わたしの学習課題」を設定し、形成的自己評価をリフレクションシートに記述しながら単元の学習を進めさせる（資料２）。

(4) 理解の質を高める学び

たくさん選んだ熟語の中から、自分の読みを紹介するのに相応しい熟語はどれか吟味する過程で、どのように読んだのかという思考が深まることが期待される。

イ 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

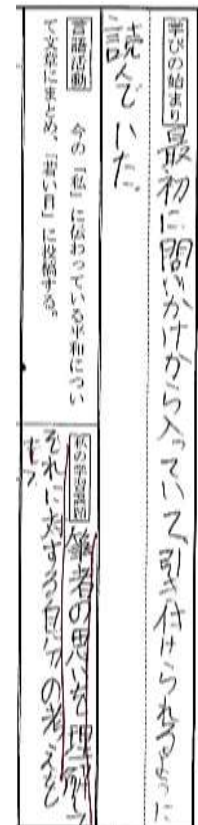
(7) シンキングスキルを活用して自己の考えを形成し、深める場の設定

理由付ける：なぜその熟語を選んだのかという根拠を本文に求めさせ、理由付けを明確にした考えを形成させる。根拠が明確になることで生徒は読んで考えたことを知識や経験と結び付け「本文の言葉をこのように読んだからこの熟語を選んだ」という思考を働かせるであろう。

抽象化する：読みを熟語にまとめるという思考過程は抽象化そのものである。自分はどのように読んだのかという思考が深まることが期待される。

(4) 生徒同士で対話的に課題を解決していく場の設定

読んだことを熟語に絞り込む過程で、どのように読んだのかという思考が働くため、様々な熟語で表現されることが予想できる。仮に同じ熟語であってもその根拠となることばや理由付けは様々であろう。生徒同士で交流する場を設定し、「なぜその熟語なのか？」という理由付けを聞き合う学びを促すことで、考えを広げたり深めたりすることが期待される。



資料２ リフレクションシート
「壁に残された伝言」
(一部拡大)

(4) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	研究の取組
導入	3分	個	1 前時の学習内容を想起する。	・ リフレクションシートより、単元の流れの中で、どのような学習をするのか把握させる。	ア－(7) 課題を解決するためにどのような方法をとればいいのか「見通し」をもたせる。
	4分	個	2 学習課題を確認し、学習の進め方をつかむ。	・ 前時に挙げた熟語を想起させ、内容をつかませる。	
わたしの読みを伝える二つの熟語は何だろうか？					
展開	5分	個	3 「走れメロス」を表わす熟語を二つに絞る。	・ 熟語を二つにすることで人物の二面性や文章構成を考えさせる。 ・ 「感情語辞典」や「国語辞典」を活用させる。 ・ 前時までに作成した文章構成図なども参照させる。	ア－(1) 人物像や文章に表れているものの見方や考え方を既知の熟語や調べた熟語と結び付け理解が深まる。
	10分	個	4 なぜその熟語にしたのか三角ロジックを使って整理する。 熟語 根拠（本文）理由付け（解釈） シンキングツール（三角ロジック）	・ 根拠には、教科書本文から引用させる。 ・ 理由付けには、本文をどのように感じたり解釈したりしたのかを書かせる。	イ－(7) 三角ロジックにより根拠や理由付けが明確になる。
	10分	ペア・班	5 友だちと互いの考えを共有し、考えを広げる。	・ 聞くときには「なぜ？」、「どうして？」をキーワードに質問させる。 ・ 最後に感想や意見を述べさせる。	イ－(1) 「なぜその言葉にしたの？」、「どうしてそんな解釈になるの？」と問いかけながら互いの考えを比較・検討することで考えが広がり、深まる。
終末	7分	個	6 なぜその言葉を選んだのか根拠を明確にして文章にまとめる。	・ なかなか書き出せない生徒には書き出しの文型を示す。 ・ 早く書き終えた生徒にはリフレクションシートを書かせる。	

終 末			記述の例 「信託」と「暗影」 信実がテーマの作品でしたが、個人的にはメロスが信実を少し疑っていたのが印象的でした。メロスは途中で疲れて倒れてしまい、人を殺して自分が生きるのが定法だと悪徳に心が染まってしまい、物語に暗い影が落ちてしまいます。ここから「暗影」という言葉を考えました。しかし、最後には命をかけて信頼に報いようとするメロスの姿や、友を信頼して無言で縄打たれるセリヌンティウスの姿からは「信託」という言葉がぴったりだと思いました。正反対の二つの言葉ですが、「走れメロス」を表わすのにはこの二語がぴったりだと考えます。			
	6分	個	7	リフレクションシートの「振り返り」の欄に「何が出来るようになったのか」という観点を含めて自己評価を記述する。	授業を振り返る視点は「わかったこと」、「できるようになったこと」、「生かせそうなこと」という観点を設定しているが、本時は特に「出来るようになったこと」に焦点化し、学んだことを一般化・自覚化させる。	ア－(ア) 自己の学習状況をリフレクションシートにまとめることで、自覚させ、次時の学習へつなげる。
	5分	一斉	8	次時の予告を聞く。		